

インド

崩れる壁 (1991年) ウベンドラナート・アシュク 著 高橋 明監修 三木 雄一郎 訳	ヒンディー・リアリズム小説の傑作 文学に志を抱く青年チーターの恋と苦悩… そこに投影されるのは、若き日の著者の姿
タマス (1991年) ビーシュム・サーヘニー 著 田中 敏雄 訳	タマス ― 暗黒と名づけられた歴史の瞬間 1947年のインド・パキスタン分離独立前の5日間を、冷徹な 目で克明に描いた、インド国立文学アカデミー賞受賞作品
ジョルジャゴル (1993年) タラジョン・ポンドパッダ工 著 丹羽 京子 編訳	明かりを消せ、音楽堂を閉めるんだ! 七代続いた領主、ラエ家の終焉を描いたタラジョンゴルの 代表作
現代ヒンディー短編選集1 (1999年) 長 弘毅 監訳	大海の一滴の存在の重さ 民衆にとって独立とは?その真の意味を問うヒンディー文 学の世界
私の兄バルラージ (2002年) ビーシュム・サーヘニー 著 田中 敏雄 / 鈴木 美和 訳	人が死後唯一遺すことができるもの、それはその人柄の 香りである。尽きることのない兄への想いを綴ったヒン ディー文学の秀作
ビールの少年時代 (2006年) クリシュナ・バルデーオ・ヴァイド 著 長崎 広子 訳	異色のヒンディー作家 第一作 傷つきやすい少年の目を通して、インドの家族の生活が繊 細なタッチで見事に表現された代表作
ウダイ・プラカーシ選集 (2011年) ウダイ・プラカーシ 著 石田 英明 編訳	時代を捉え、社会の矛盾に警鐘を鳴らす 現代ヒンディー文学を代表する作家の傑作3作品を収録
ベンガル詩選集「もうひとつの夢」 (2013年) 丹羽 京子 編訳	新たな詩の輝き 夢を紡ぐ7人の詩人の世界 現代ベンガル詩を代表する詩人7人の作品を収録
黄色い日傘の娘 (2017年) ウダイ・プラカーシ 著 石田 英明 訳	理不尽な現実が、ふたりの愛を強くする。 現代ヒンディー文学の第一人者が投げかける問題作。

インドネシア

ニ・ポロック (1990年) ヤティ・マルヤティ・ウィハルジャ 著 佐々木 重次 監修 山根 しのぶ 訳	ベルギーの画家と結婚し、東西芸術の融合を果たす。そし てイタリア人医師との結婚、別離… 舞姫ニ・ポロックが語 る愛の半生
レンドラ (1990年) レンドラ 著 印堂 哲郎 編訳	風の中に住む詩人レンドラ 「インドネシアの良心」― 愛と抵抗の詩人レンドラの詩と 詩劇 13編を収録
チバラックの丘の麓で (1992年) アフマッド・トハリ 著 山根 しのぶ 訳	中部ジャワのどかな農村、チバラックの丘の麓のタンギ ル村にも近代化の波が押し寄せる。新しい生活様式へ変化 を遂げていく村を背景に、ひとりの青年を中心にさまざま な人間模様を描く
ヌキのいない旅 (1993年) アイブ・ロンディ 著 粕谷 俊樹 訳	村での結婚、出産、子育て、人々との交わり、祖母の病気 などさまざまな出来事が頭をよぎる。著者の自伝的青春小 説
愛のかたみ (2002年) ヤティ・マルヤティ・ウィハルジャ 著 山根 しのぶ 訳	“死が訪れるその時まで書き続けたい” 42歳で逝ってしまった女流作家が遺した愛をめぐる 12編 を収録

カンボジア

現代カンボジア短編集 (2001年) 岡田 知子 編訳	民族の歴史の記憶 フランスから独立以降現在に至るまで、悲運の歴史 の中に遺された貴重な 13編を収録
地獄の一三六六日 (2007年) オム・ソンパット 著 岡田 知子 訳	生き延びた! ポル・ポト政権下での過酷な体験を克明に綴った一庶民の 記録。「第43回日本翻訳出版文化賞」受賞作品
萎れた花・心の花輪 (2015年) ヌー・ハーイ 著 岡田 知子 訳	時代の厳しい雨風のなか、咲き誇る純粋な愛の花 カンボジアの著名作家ヌー・ハーイ氏による同国の国民的 な文学作品を収録

スリランカ

変わりゆく村 (2010年) マーティン・ウィクラマシンハ 著 野口 忠司 / 藤田 健一 訳	スリランカを代表する作家 マーティン・ウィクラマ シンハの畢生の大作 変貌する社会を背景に旧家三代の栄枯盛衰を描いた 三部作 第一弾
変革の時代 (2011年) マーティン・ウィクラマシンハ 著 野口 忠司 訳	旧家三代の物語 第二部 ― 地位と名誉を追い求める父、奢 侈と社交に明け暮れる母、両親の虚像に愛想をつかさ子供 たち。崩壊する家族の過去と現在を浮き彫りにした秀作
時の終焉 (2012年) マーティン・ウィクラマシンハ 著 野口 忠司 訳	旧家三代の物語 完結! ― 事業家の父に反発し労働運動に加 わっていく息子。慣習にとらわれず新しい道を選ぶ娘。“マ ハ・ゲダラ(大家)”の未来は?

タイ

業の農 (1986年) トゥアンチャイ 著 吉岡 みね子 訳	1973年の民主革命が起きた時代を背景に、国家発展の変 遷期にあったタイが包含する諸問題を浮き彫りにした作品
アジアにかかる虹 (1987年) スミット・ヘーマサト / アキン・ラビーパット 著 野中 耕一 編訳	著名な教育家であり、タイのスラムの子供たち、住民のため に献身的な努力を続けるブラチエーフ女史の生い立ちと数々 の活躍を綴った評伝
チャオプレー河の流れ (1987年) サティエン・チャンティマートン 著 吉岡 みね子 編訳	タイ文学の脈動 歴史・社会思想の観点からタイ文学を洞察し、その思潮を鋭 く分析するとともに、文学を通して社会を見つめる。「タイ 文学」を読み解くための視座を与えてくれる一冊
メナムの残照 上・下 (1987年) トムヤンティ 著 西野 順治郎 訳	タイ国王最高文学賞受賞作品 初の完訳 日本軍人とタイ女性に恋が芽生え、その一途な思いも、時代 の潮流に翻弄されて…
マブラーオの楽章 (1989年) ワット・ワンラーンクーン 著 吉岡 みね子 訳	音楽を愛する一人の青年の眼をとおして、タイ現代社会を 様々な角度から捉え、人間の真の生き方を問うた作品
ナーンラム (1990年) タイ国言語・図書協会 編 吉岡 みね子 編訳	タイ文学の万華鏡一土に、海に、都会に生きる人々の生と死 ― 15人の作者の目を通して映し出した詩・短編・戯曲 29 編のアンソロジーを収録
地、水そして花 (1991年) サクチャイ・バムルンポン 著 吉岡 みね子 訳	第二次世界大戦下、自由タイ運動に投じた青春。愛とは?人 生とは?そして戦争とは?現代史の証言を小説に織り込んだ 力作
タイ現代詩選 (1994年) スチット・ウォンテート他 21名 著 岩城 雄次郎 編訳	タイの現代社会が持つさまざまな問題やそこに生きる人々 の姿を見事に描き出した現代詩人 22人の作品を収録
イサーンの医者 (1995年) スミット・ヘーマサト 著 野中 耕一 監修 坂田 久美子 編訳	そうだ、こんなに何もないところからでも始めてみようじゃ ないか…。タイのプライマリ・ヘルスケアに偉大な業績を記 した一医師のドキュメント
ゲーム・アムナート (1997年) チャルムサク・ンゲムンガム 著 桜田 育夫 訳	ウィジャーンはなぜ撃たれたか? タイのある地方政治家の野望と挫折 果てしなく繰り返される権力をめぐる闘い
タイの大地の上で (1999年) 吉岡 みね子 編訳	人々に顧みられることなく埋もれかかった第二次世界大戦 前後の名作、短編 9編と詩 2編を収録
時 (2003年) チャート・コープチッティ 著 岩城 雄次郎 訳	「何もない。まったく何もありません!!」部屋の奥から叫 び声が聞こえてくる。それぞれの人生と孤独を抱えた老人た ちの一日を、新たな手法で描いた東南アジア文学賞受賞作
敗者の勝利 (2004年) セーニー・サオワボン 著 吉岡 みね子 訳	第二次世界大戦中の満州国をめぐる当時の国際政治の動きを 巧みに組み入れ、文学作品としても深い味わいに満ちた長編
罪との闘い (2008年) シーブーラーパー 著 宇戸 清治 訳	今なおタイ人の心に生き続ける“タイ文学の巨匠”シーブ ーラーパー 人生の真実を追い求めた表題作ほか 2編を収録
幻想の国 (2009年) M.R. ニミットモンコン・ナワラット 著 吉岡 みね子 訳	1930年代― 未来を担う若者にタイの真の発展と繁栄を託した一人の政治 犯の物語
現代タイのポストモダン短編集 (2012年) 宇戸 清治 編訳	若手作家 6人によるタイからの新しい風 タイ文学から世界文学へ
時の一雫 (2016年) セーニー・サオワボン 著 吉岡 みね子 編訳	祖国と自然を愛したタイ文学界の重鎮による随筆・評論・短 編を収録。人間を温かく見つめ続けたサオワボンの人生哲学 や歴史観が凝縮された作品集。
一粒のガラス (2017年) シーダーオールアン 著 宇戸 優美子 編訳	理不尽で無慈悲な世界。置き去りにされた弱者の痛みと孤独。 現代タイ文学随一の女性作家が描く、労働者の物語。

「アジアの現代文芸」シリーズ全72作品紹介

（ ）は電子書籍化されている作品（二〇一九年七月末現在）
（ ）は翻訳出版年

パキスタン

パルメーシャル・スィング (1987年) アフマド・ナディーム・カースミー 著 鈴木 斌 編訳	農村生活の過酷な日常のなかで貧しいながらも誠実に生き ている民衆への深い同情と共感が投影された、表題作を始め とする 12編の短編を収録
静寂 (1988年) アフマド・ナディーム・カースミー 著 鈴木 斌 編訳	動乱で故郷を追われ、どん底の生活をしいられても、生き ていかなばならない哀しさ、貧しいだけが持つ逞しさを 描いた好著 5篇を収録。主人公の名前は違っても、共通す るのはパンジャービー民族の慟哭の姿…
黒いシャルワール (1988年) サーダット・ハサン・マントー 著 鈴木 斌 / 片岡 弘次 編訳	悲しくもユーモラスな人間ドラマの意外な最後 ― 結末の 見事さで“読者に平手打ちをくわせる”と評されたマントー 初の短編集
ガラムク・スィングの遺言 (1990年) サーダット・ハサン・マントー 著 鈴木 斌 / 片岡 弘次 編訳	世間から少しずれてしまった人々を、シニカルに、そして ユーモラスに描いたマントー独自の世界。鮮烈な印象を残 す 9編を収録
アーナディー (1991年) グラム・アッパース 著 山根 聡 編訳	簡明な文体、繊細な描写で“日常生活の仮面”を見事に剥 いでみせるアッパース。表題作ほか 10編を収録した傑作 短編集
ダーダーと呼ばれた女 (1992年) ハディージャ・マストゥール 著 鈴木 斌 編訳	あたしゃ女じゃない 悪党なんだよ。幸せな結婚を夢見て いたカニースは冷たい家庭に絶望した。女であることを拒否 し、ダーダー（悪党）となった彼女を待ち受けていたもの は…
神の街 (2006年) ショウカット スィッディーキー 著 萩田 博 訳	パキスタンが長年にわたって抱えている失業や貧困が原因 となって引き起こされる犯罪や政治の腐敗などを描き出し 同国最大の文学賞“アーダム・ゾー文学賞”を受賞した作 品
インディザール・フサイン短編集 (2009年) インディザール・フサイン 著 萩田 博 訳	現代ウルドゥー文学の開拓者 インド・イスラーム文化の本質を追求した、パキスタン を代表する作家の秀作 8編を収録
ジブールの翼 (2011年) ムハンマド・イクバル 著 片岡 弘次 訳	パキスタンの「国民的詩人」であると同時に、宗教家、哲 学者、政治家でもあった、イクバルの今なお愛唱される 最高傑作
ムーサーの一撃 (2014年) ムハンマド・イクバル 著 片岡 弘次 訳	国民的詩人の現代への戦闘宣言 衰退するイスラーム教徒に向けて、主体性の強調と行動主 義を基調とする自我の哲学思想を詩に託した戦闘宣言の書
ヒジャーズの贈物 (2018年) ムハンマド・イクバル 著 片岡 弘次 訳	ベルシャ語とウルドゥ語からなる彼の 40年間の思想・哲 学を集大成した作品。イスラーム社会の行く末を憂い、イ スラーム教徒の再生と覚醒を熱い詩に託す。

バングラデシュ

赤いシャルル (2004年) ショイヨド・フリウツラ 著 丹羽 京子 訳	バングラデシュ文学の白眉 「根無し草」モジッドが築き上げる偽りの世界、極貧の中で 懸命に生きる村人たち、それらのすべてを翻弄する圧倒的 な自然を描いた力作
バングラデシュ詩選集 (2007年) 丹羽 京子 編訳	「詩の国」から タゴール以後も引き継がれてきたベンガル詩の伝統。生、 死、人生そして愛 ― 時代を映し出す 4人の詩的世界

フィリピン

鯨の涙 (1997年) アマド・V・ヘルナンデス 著 大上 正直 監修 蜂谷 純子 訳	フィリピン民衆の真実 どこにでもあるような町サンピロンを舞台に、権力 者の腐敗と民情を描いたロングセラー
---	--

ベトナム

ベトナム現代短編集1 (1995年) 加藤 藤 編訳	新時代の息吹! ベトナム人の等身大の姿や日常を、生き生きとそし て大胆に描いた、8人の作家の作品を収録
農園の日差し (2000年) タック・ラム 著 川口 健一 編訳	“日常生活の詩情を開拓した最初の人” タック・ラム が、ベトナム社会とそこに生きる人々を豊かな感性 で描く珠玉の名編集
ベトナム現代短編集2 (2005年) 加藤 藤 編訳	ベトナム文学の現在 新世代の作家とベテラン作家 11人が織りなす同時代 のベトナムを伝えるメッセージ
囚われた天使たちの丘 (2016年) グエン・ゴック・トゥアン 著 加藤 藤 訳	秋のない庭で、娘たちは守られていたはずだった。 外の世界を知るまでは…。伝統的な家族の絆、親子 の愛情といった観念に鋭くメスを入れた実験的作品。

マレーシア

バングルの虎 (1989年) シャノン・アハマッド 著 星野 龍夫 訳	風がそよぎ、鳥が囀るマレーシアの小村。近代化の 波がこの村にも押し寄せてきた。混乱に陥った村人 の前に、一匹の虎が現れる ―
ある女の肖像 (1998年) S・オスマン・クランタン 著 小野沢 純監修 加古 志保 訳	時代も国境もこえるものは? 父と夫、そして子供たちの死… 残された大家族を抱 え、日本軍占領下のマレー社会で、シティムサルマー は知と愛をもって生き抜いた
レダ山のお姫様 (2003年) 藤村 祐子 / タイバ・スライマン 編訳	マレー文化の源流をたどる 現在も語り継がれる昔話と伝説 17話を初めて邦訳
山の麓の老人 (2005年) アジジ・ハジ・アブドゥラ 著 藤村 祐子 / タイバ・スライマン 訳	ボンスー山の麓がトゥキア老人の全てだった。父子 の相克と軋轢から生じた悲劇を描き、長く人々の心 を捉えるロングセラー

ミャンマー

初夏 霞立つ頃 (1990年) マウン・マウン・ビュー 著 河東田 静雄 訳	真摯な魂が生んだ青春小説 社会主義国家建設時に書かれた『国民文学賞』受賞作品
農民ガバ (1992年) マウン・ティン 著 河東田 静雄 訳	第二次世界大戦下のイラワジデルタ地方の村。歴史の波に 翻弄されながらも逞しく生きる主人公ガバ、民衆の視点 に立ち、農民の言葉で描いた反戦文学の傑作
ミャンマー現代短編集1 (1995年) 南田 みどり 編訳	1980年代以降の、ミャンマーのいわゆる「短編黄金時代」 に描かれた 14編を収録
ミャンマー現代短編集2 (1998年) 南田 みどり 編訳	1990年前後を中心に多民族国家ミャンマーの街、村、山に 住む民衆の日常生活と心の営みを活写した 18編を収録
ミャンマー現代女性短編集 (2001年) 南田 みどり 編訳	娘、妻、母、女…それぞれの立場からミャンマーの社会やそ こに生きる人々の姿を描いた女性作家による 21編を収録
漁師 (2007年) チェニイ 著 河東田 静雄 訳	イラワジデルタ地方で暮らす貧しい漁師夫婦たちの日常と その心の軌跡を描いたリアリズム文学の傑作
ティンペーミン短編集 (2010年) ティンペーミン 著 南田 みどり 編訳	文学と政治の狭間を駆け抜けた戦後ビルマ文学界の騎手 民衆の真の姿と自らの心の軌跡を浮き彫りにした傑作短 編集
短編集 買い物かご (2014年) キンセントゥー 著 斎藤 敏子 訳	「市場」には人生がつまっている 「市場」を通した人々の日常や昔ながらの暮らしが生き 生きと描かれた作品 13編を収録
二十一世紀ミャンマー作品集 (2015年) 南田 みどり 編訳	いまのミャンマーが見えてくる。厳しい時代を生き延びた 言葉たち、現代ミャンマーの日常を懸命に生きるさまざま な階層の人々の感慨がみずみずしく表現された短編小説 14編、詩 16編を収録
喜びの木陰 (2018年) チェニイ 著 河東田 静雄 訳	イラワジ・デルタ地方の人々や同地方に生息する鳥や魚な どの生態を細やかに描写。リアリズム文学の旗手にふさわ しい珠玉の作品集。

ラオス

ムアン・プアンの姉妹 (1993年) スワントーン・ブッパーヌウォング 著 星野 龍夫 訳	彼女たちが手を触れればすべてのものが花になる 気高く美しい姉妹を中心に、革命に青春を懸けた若者たち を描いた大作
ラオス現代文学選集 (2013年) 二元 裕子 編訳	「近くて遠い国」ラオスに生きる人々の息遣い 東南アジア文学賞受賞作家 6人が描く等身大の人間模様